

# 第3期秀明大学中期計画

2022年～2026年度

学校法人 秀明学園

## はじめに

本学では、これまで「秀明大学中期計画（2012～2016）」「秀明大学第2次中期計画（2017～2021）」を策定し、理事長・学長のリーダーシップのもと、本学の建学の精神である「真理を追究し、友情を培い、広く社会に貢献する人間形成を目的とする」の実現をめざす法人ならびに大学運営に取り組んできた。

この間、本学では2017年に5つ目の学部となる看護学部を設置し、収容定員が2,000人を超える大学へと成長するとともに、外部機関による全国高等学校進路指導主任に対するアンケートにおいて「面倒見の良い大学」「入学後、生徒を伸ばす大学」「就職指導に力のある大学」

「教員就職率の高い大学」などの項目において上位にランキングされるなど、一定の成果を収めてきた。中でも現理事長（大学学長兼任）が就任時に掲げた「日本一面倒見の良い大学を目指す」というスローガンそのものが、生徒を大学へ送り出す高校進路指導主任によって評価されたことは本学の取り組みの成果が確かなものであったことの一つの証であった。

このたび策定した「秀明大学第3次中期計画（2022～2026）」は、これまでの計画の中で成果を上げたことを引き続き堅持しつつ、常勤監事の設置（2020年～）、監査室の設置（2020年～）による監査体制の強化継続をはじめ、未達成であった課題や2019年2月に文部科学省が出した「高等教育・研究改革イニシアチブ」にある「教育の質保証と情報公表の促進」、ガバナンス体制強化等の新しい課題を踏まえることに重点を置いたものとなっている。

## I 基本情報

1. 法人所在地・役員数
2. 設置校
3. 入学定員、収容定員、在籍数
4. 教職員数

## II これまでの成果と今後の課題

## III 第3期中期計画基本方針

## IV 教育研究等に関する中期計画

1. 入学定員の確保ならびに適正管理  
    広報・募集活動の強化
2. 教育活動の改善  
    教学マネジメントの改善
3. 教育環境の整備  
    ICT化の推進
4. キャリア支援体制の改善
5. 学生支援体制の改善、満足度の向上

## V 業務運営の改善・効率化に関する中期計画

1. ガバナンス・コードに沿った経営強化
2. リスクマネジメントの強化
3. 情報公開の促進
4. 人事・労務管理の改善
5. 施設設備の整備・更新

## VI 財務の改善に関する中期計画

1. 事業活動収入の増加
2. 事業活動支出の圧縮

# I. 基本情報

## 1. 法人所在地・役員数

- (1) 所在地 埼玉県川越市大字笠幡字川向 4792 番地
- (2) 役員数 理事 11人 (内部理事7人、外部理事4人)  
監事 3人 (常勤監事1人、非常勤監事2人)  
評議員 23人

## 2. 設置校、所在地

- (1) 秀明大学 千葉県八千代市大学町1丁目1番  
学校教師学部中等教育教員養成課程  
看護学部看護学科  
総合経営学部企業経営学科  
英語情報マネジメント学部英語情報マネジメント学科  
観光ビジネス学部観光ビジネス学科
- (2) 秀明中学校 埼玉県川越市大字笠幡字川向 4792 番地
- (3) 秀明高等学校 埼玉県川越市大字笠幡字川向 4792 番地
- (4) 秀明英光高等学校 埼玉県上尾市上野1012番地
- (5) 秀明大学学校教師学部附属秀明八千代中学校 千葉県八千代市桑橋803番地  
秀明大学学校教師学部附属秀明八千代高等学校 千葉県八千代市桑橋803番地

## 3. 入学定員、収容定員、在籍数 (2022年5月1日現在)

	区分	入学定員	収容定員	在籍数	備考
秀明大学	学校教師学部	200	800	827	2008年設置
	看護学部	80	320	177	2017年設置
	総合経営学部	90	360	448	1988年設置
	英語情報マネジメント学部	70	280	295	2006年設置
	観光ビジネス学部	70	280	289	2009年設置
秀明中学校		120	360	196	1978年開校
秀明高等学校		160	480	199	1979年開校
秀明英光高等学校		400	1,200	908	1981年開校
秀明大学学校教師学部附属秀明八千代中学校		80	240	121	1981年開校
秀明大学学校教師学部附属秀明八千代高等学校		370	1,110	1,206	1984年開校

## Ⅱ. これまでの成果と今後の課題

従来の中期計画の具体的な目標を踏まえた成果と今後の課題は以下のとおりである。

### 1. 学長権限ならびに意思決定体制の明確化・確立

学則ならびに学内諸規定の改訂を終えるとともに、意思決定の権限者である学長をトップとし、幹部会、教授会、各分掌会、学部会、教職員連絡会による意思の疎通ならびに決定体制を明確化し、確立した。

### 2. 学長を支える体制の強化

学長事務取扱を置くとともにならびに本学独自の校務分掌体制による業務分担と責任の明確化を図った結果、学長を支える体制を確立した。大学の質向上に必要な分析データの収集と活用については、各分掌がその責任を負い、学長に適切に報告し、機能しているが、今後は学長室やIR室などの部署を設け、一層の充実を図ることが課題である。

### 3. 戦略的な大学運営

毎年度運営案の作成と結果の検証という本学独自のPDCAサイクルによる改善システムを確立し、教学面では「面倒見の良い大学」として上位にランキングされるなど、一定の成果を上げることができた。適切な人員の配置については、認可を受けて2017年に新設した看護学部はもちろんのこと、全ての学部において大学設置基準を満たすだけでなく、本学において最も収容定員が多く、成果を上げている学校教師学部の人員は基準を大幅に上回り教員組織は充実している。施設の充実では、第2次中期計画期間において、看護学部棟竣工、太陽光発電システム導入、構内外灯LED化改修、第4学生寮竣工、井戸掘削、地下水飲料化システム導入、総合体育館竣工、学生食堂棟増築、図書館カフェテリア竣工、PCR検査室設置、各棟LED化改修工事、南側駐車場、野球グラウンド改修、第5学生寮竣工等を実施、大いに目標を達成した。

今後の課題は、事務体制の拡充とそれに伴う人員の確保である。

### 4. 教職員、学生、学費負担者が一体となった魅力ある大学づくり

HPの「WEB PRESS」による情報発信の充実、学内報「秀明」の大学版の創刊、学生だけでなく学費負担者も利用できる学内SNSの導入、地区別父母懇談会、学生、教職員、後援会（学費負担

者の会)が協力して運営する大学祭(飛翔祭)などを通じて一体感の醸成を図ることができた。

今後の課題は、新型コロナウイルス感染症対策によりオンライン開催のみとなっていた大学祭、地区別父母懇談会の来場型または来場型とオンライン型を組み合わせたハイブリット型等の工夫により、新型コロナウイルス感染拡大前の状況への復帰を目指すことである。

## 5. 教育の力と質の向上

2013年に教養教育委員会を設置して従来、各学部で行っていた教養教育を見直し、翌年度から全学部共通のカリキュラムによる教養教育を開始し、以後、年度ごとに改善を加えながら現在に至っている。全学部共通であることから他学部生との交流も生まれ、教育、看護、経営、英語、情報、観光分野の広い視野に基づく教養を身に付けることができると好評である。

また、カリキュラムポリシーに基づく教育課程の改善・変更の毎年実施、ディプロマポリシーに基づいた厳正な評価体制の確立と学位の授与、年4回の授業評価アンケートの実施とその結果の教科担当者のフィードバック、不評担当者へのヒヤリング、オンラインによる出席管理とそれに基づく担任の出席指導の徹底等により教育力と質の向上を図ることができた。

今後の課題は、これまでに確立された教育力と質の向上の体制をさらに維持・改善し続けることと、新型コロナウイルス感染症対策の観点から中止していた全学部教員による教員研究発表会の再開ならびに新たな教育力向上の方策を検討・実施することである。

## 6. 学生指導の充実

2006年に担任制が置かれて以来、週1回、必ず担任が指導者となり、密接に担当学生と関わる体制は着実に成果を上げ、「面倒見の良い大学」としてランキング上位に位置する原動力となった。担任が、初年次教育、履修指導、学修指導、キャリア教育、就職指導等において、常に各担当セクションと連携を取ることで、組織の連携による質の高い学生指導が可能となった。

今後の課題は、引き続き必要であると思われる新型コロナウイルス感染症や経済的理由による学業継続困難者に対する物心両面での手厚い支援体制である。

## 7. 研究活動の活性化

研究活動の活性化を図る方法として、本学紀要への投稿と科研費等への積極的な応募を促進してきた。特に科研費獲得数は順調に増加した。また、2012年から教員研究発表会を開始し、全教職員が発表を終えた後、2014年からは新任教員は必ず全員が年度内に発表することとし、研究活動の充実を図って

いる。

今後の課題は、学内の競争的研究費の創設等、これまでになかった研究活動の活性化手段を構築することである。

#### 8. 大学の人的・物質的資源活用による社会貢献の充実

第2期中期計画期間において、顕著な成果があった項目の一つである。文部科学省や八千代市はじめとする大学周辺の公的機関、看護協会からの依頼に基づく委員の派遣数は人数、回数ともに大幅に増加した。また、学校教師学部学生による地域の公立学校での学習支援活動、東京オリンピック2021の代表選手の在籍する女子水球部による地域のスポーツイベントへの参加などの成果がある。

今後の課題は、これまでの社会貢献活動の継続・充実と新たな貢献活動の考案、新型コロナウイルス対策の一環として休止していた大学施設の地域提供の再開である。

#### 9. 教育研究環境の整備と充実

こちらも第2期中期期間中において、顕著な成果があった項目の一つである。2018年看護学部設置に伴う校舎の増築と機器備品の増備、寮生の増加に伴う第4学生寮、第5学生寮の新築と新型コロナ対策による二人部屋の個室化、学生食堂の増築、老朽化した体育館に代わる総合体育館の新築、全館Wi-Fi化、全教室でのリモート授業を可能とするICT化、学内独自のPCR検査室の設置などの成果がある。

今後の重要課題は、防災対策である。特に1000人を超える寮生の災害時の安全対策は計画的に進め、万全を期す必要がある。2020年に学内に井戸を掘削し、水質検査を経て飲料水ならびに生活用水を確保することはできたが、防災用品ならびに食料の備蓄を計画的に進めていく。

#### 10. 学生生活・学生満足度の向上

第1期中期計画当時、あまり活発でなかった部活・サークル活動やほとんど来場者が学内関係者に限られていた大学祭は、第2期中期期間中に充実し、学生活動に大きな成果が見られた。このほか、学生からの要望による大手コンビニエンスストア、学内で焼くベーカリーの開店、図書館カフェテリアの新築等、厚生施設の充実、スクールバスの増便等が実現した。

今後も学生からの要望のうち、可能なものを実現して学生生活の満足度を向上させることである。

## 1.1. 学生相談・支援の充実

2012年度までは、学生課が窓口となり、病気やケガ、各種相談に応じていたが、2013年度から保健室を設置し、専属の職員を配置した。現在は養護教諭の資格を持つ専任職員と看護師の資格を持つ非常勤職員が常駐し、対応にあたる体制を整えた。中でも学生のメンタルサポートは、担任、保健室職員、学生課職員が連携して行うとともに、外部のメンタルサポート機関と契約し、24時間受け付ける体制を確立した。

また、2011年度までは一部の学部に限られていた奨学金制度を見直し、全学部対象とした上、入学試験の結果で決定される奨学金に加え、2013年度からは年度ごと各学部、各学年の成績優秀者を対象とする学習奨励金制度を設けた。

留学生に対する支援強化では、2014年から国際交流委員会を立ち上げ、各国留学生間はもちろんのこと、日本人学生や近隣住民との交流を深めるイベントの開催、日本人学生によるチューター制度を設け、一定の成果を上げてきた。

今後の課題は、第2次中期計画で整備した上記の取り組みを継続するとともに、より充実させることである。中でも、新型コロナ感染対策により一時中断を余儀なくされた様々な交流活動を感染予防対策を施したうえで再開することや感染拡大の状況によってアルバイト等が不可能となり経済的に困窮する学生が予想される場合には、2020年度に実施した全学生を対象とした一律5万円の奨学金支給（返還不要）等の経済援助を実施することである。

## 1.2. 進路指導の充実

第1次中期計画、第2次中期計画で継続して強化してきた担任ならびに学部教員組織による初年次教育、学部の専門性及び学生本人の将来構想をもととしたキャリア教育、3年次後期からの就職支援センターと連携して実施する就職指導など、一連の進路指導体制を確立することができた。

これによって学校教師学部は、毎年全国で1, 2を争う高い教員就職率を、看護学部は設置2年目にして看護師国家試験合格100%を果たすという成果を上げた。また、英語情報マネジメント学部、観光ビジネス学部の両学部もほとんど毎年就職率100%を記録している。

今後の課題は、これまでの進路指導体制を維持、改善するとともに、総合経営学部の進路指導を強化し、他の学部同様の成果を上げることである。

### 13. 教職員の能力開発の強化

1995年に導入した教職員の業績評価制度ならびにそれに基づく給与査定制度を継続し、教職員の意欲の向上に努めている。特に教員の評価項目は第2次中期計画期間において、より具体的に示され、教員の能力開発の強化に役立っている。

一方、事務職員の研修の場は年に2度開催される学園全体の研修会の場に限られており、外部研修の機会もほぼないことからスタッフディベロプメントの活性化が今後の課題となっている。

### 14. コンプライアンスの向上

第2次中期計画期間中で大きな成果の一つとなったのは、内部監査室を新設し、専任の監査室長を置くことで内部監査の体制が整備されるとともに、法人の監事を2名から3名に増員し、そのうち1名が常勤となり、三様監査の体制も整ったことである。さらに、内部監査室が主導し、各種法令に基づき、学内規程の整備、改訂を行い、ガバナンス強化のための「内部統制規則集としてまとめ、教職員がオンライン上で常時閲覧・確認できるようにした。また、外部講師を招いて本学の教職員（非常勤含む）に対するコンプライアンス研修会を定期的を実施することとしたことも大きな成果である。

今後の課題は、整備された体制に基づき、実効性のある監査を実施し、それによってガバナンスならびにコンプライアンスの状況を常にチェックすることである。

### 15. 財政基盤の安定、強化

基本金組み入れ前の収支差額において、2008年に支出超過となったものの、その後はわずかではあるが、収入超過の状態を維持している。その理由としては、募集強化による寄付金の増加、学生数の増加による学納金収入の増加、人件費の見直し、教職員のコスト意識の向上、LED照明の導入、電力契約の見直しなどのコスト削減に努めた成果である。また、本学園は以前から外部からの借入金はなく、財政基盤は安定している。

今後もこれまでの財政安定・強化策を引き続き継続していくことが課題である。

## Ⅲ. 第3期中期計画基本方針

### 1. 基本理念

以下の建学の精神・校訓、使命・目的を堅持し、その実現に向けて邁進する。

#### (1) 建学の精神

「常に真理を追究し、友情を培い、広く社会に貢献する人間形成を目的とする」

#### (2) 校訓「知技心」

#### (3) 大学の使命・目的

「本学は、教育基本法並びに学校教育法に基づき学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学術を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ新しい時代に即応して国際的な広い視野と識見を有し、強い実行力を具えた人材を育成することを目的とする」

### 2. 中期計画の目標

校訓「知技心」を踏まえ、豊かな人間性と幅広い教養を持つとともに学校教師学部、看護学部、総合経営学部、英語情報マネジメント学部、観光ビジネス学部それぞれの専門分野における専門的職業人の育成を目標とする。

この目標を達成するため、「教育研究」「業務運営」「財務」の3つの項目に沿って2022年度から2026年度までの中期計画を以下のとおり策定した。

## IV. 教育研究に関する中期計画

1. 広報・募集活動の強化による入学定員の確保ならびに適正管理
2. 教育研究活動の改善、教学マネジメントの改善
3. 教育環境の整備、ICT化の推進
4. キャリア支援体制の改善
5. 学生支援体制の改善、満足度の向上

### 1. 広報・募集活動の強化による入学定員の確保ならびに適正管理

「財政破れて私学なし」の言葉どおり、学校法人の運営は健全で安定した財務基盤の確立にかかっている。そのためには第一に入学定員を確保するとともに入学した学生の在籍を適正に管理し、安定した学納金収入を得ることである。そこで、これまで以上に広報・募集活動を強化して入学定員を確保するとともに、教育研究活動、学生支援を充実させ、入学した学生の学籍を適正に管理することを目指す。

#### 【主な取り組み】

- ①紙面に加えインターネット媒体を活用した広報活動の充実・拡大
- ②SNSを活用した情報の発信
- ③年間を通じた来場型、オンライン型を組み合わせたオープンキャンパス、見学会等の充実
- ④附属系列高校との連携強化
- ⑤教育研究成果の積極的な発信

### 2. 教育研究活動の改善、教学マネジメントの改善

本学の建学の精神ならびにアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーは社会に対する約束であり、学生はそれに期待して入学する。その期待に応えるために教育研究活動の更なる充実と教学マネジメントの改善を目指す。

#### 【主な取り組み】

- ①FD委員会を中心とした教育研究活動の改善
- ②学級担任制のさらなる充実
- ③GPAの活用
- ④各学部の専門領域を踏まえた実学教育、資格取得指導の充実

### 3. 教育研究環境の充実、ICT化の推進

教育研究活動の基盤は教育研究環境である。特に、まもなく訪れる超スマート社会を踏まえ、教育のICT化を推進することは喫緊の課題である。そこで、教育研究活動の充実ならびにICT化の促進を目指す。

#### 【主な取り組み】

- ①校地校舎をはじめ教育研究活動に必要な機器備品の整備拡充
- ②適切な教育研究経費の支出
- ③GIGAスクール構想に基づく大容量高速インターネット環境および学内有線・無線LANの整備
- ④情報セキュリティの強化
- ⑤全教室へのICT機器の整備ならびに更新
- ⑥ICT教育推進機関としての秀明IT教育センターの機能充実
- ⑦科研費獲得の奨励と支援
- ⑧産学連携の強化

### 4. キャリア支援体制の改善、充実

建学の精神に基づき、広く社会で貢献する人材を育成する上で必要なキャリア教育ならびに支援体制をさらに改善、強化することを目指す。

#### 【主な取り組み】

- ①初年次からのキャリア教育の改善、充実
- ②就職支援プログラムの改善、充実
- ③各種免許、資格取得対策指導の改善、充実
- ④各専門分野におけるインターンシップ等の改善、充実

### 5. 学生支援体制の改善、満足度の向上

学生が不自由なく学修に専念できる環境を整えるとともに、経済的理由によって大学進学をあきらめたり、入学後の学業に悪影響が出ないよう入学時からの奨学金制度をこれまで以上に充実することを目指す。また、新型コロナウイルス感染症対策、外部専門機関によるメンタルサポートをはじめ学生の心身の健康管理を徹底する。学生に対する授業改善アンケート、寮生活アンケート、保護者会等による学費負担者の要望を調査し、満足度の向上を図る。

#### 【主な取り組み】

- ①独自の奨学金支給継続
- ②学内PCR検査の実施継続
- ③外部メンタルサポート機関の活用

- ④担任による相談活動の継続と充実、学生情報システムによる情報共有の徹底
- ⑤各種アンケート等、満足度調査の継続
- ⑥地区別父母会の開催により学費負担者の要望把握

## V. 業務運営に関する中期計画

1. ガバナンス・コードに沿った組織運営の強化
2. リスクマネジメントの強化
3. 情報公開の促進
4. 人事・労務管理の改善
5. 施設設備の整備・更新

### 1. ガバナンス・コードに沿った組織運営の強化

学校法人の運営には透明性ととも、公正かつ迅速な意思決定を行うための仕組みが求められている。そのため本法人も私立大学協会の例示を基に作成したガバナンス・コードに従い、組織運営を強化することを目指す。

#### 【主な取り組み】

- ①理事会・評議員会による適切な運営
- ②学長のリーダーシップによる組織力強化と教学の充実
- ③内部監査体制の強化
- ④情報公開の推進
- ⑤中期計画を軸とした改善

### 2. リスクマネジメントの強化

生徒・学生教職員が密閉・密集・密接の空間で活動する学校では、防災・感染対策が重要である。

#### 【主な取り組み】

- ①防災・感染対策の強化
- ②情報セキュリティの強化
- ③法令順守の徹底、ハラスメント、倫理違反、教育研究上の不正等の防止

### 3. 情報公開の促進

私立学校と言えども、学校教育法第1条に定められた公的な教育機関であり、公的補助金を受けていることから、その教育研究活動をはじめとする学園の全活動について情報を公開し、透明性を高めることは学生、学費負担者、社会からの信頼を得るためにも不可欠なことである。この考えに基づき、これまで以上に情報公開を促進することを目指す。

#### 【主な取り組み】

- ①ホームページ、各種SNS、学外イベント、スポーツを通じて、教育研究活動および法人運営についての情報発信を強化する
- ②戦略的な広報活動の推進
- ③ブランディングの強化「日本一面倒見の良い大学」

## 4. 人事・労務管理の改善

教育研究活動の充実のためには、教職員組織の充実・強化が基盤となる。日本の社会が求めている働き方改革を本学園においても推進する。また、適正な人事評価、FD、SD活動によって労働意欲と力量を一層高めていく。

#### 【主な取り組み】

- ①社会の趨勢に対応した労働環境の整備、業務効率化の推進
- ②人事評価制度による労働意欲の喚起
- ③FD、SDの整備・充実

## 5. 施設設備の整備・更新

2022年3月の第5学生寮の竣工をもって、大学における校舎・施設の新築は一区切り終え、第3期では建築後40年を経過し、老朽化した中高の校舎のリニューアルを中期計画のもと実施していく。

#### 【主な取り組み】

- ①財務の中長期的計画に基づく設備の充実・更新
- ②附属中高の校舎改築

## VI. 財務に関する中期計画

1. 事業活動収入の増加
2. 事業活動支出の圧縮

### 1. 事業活動収入の増加

財政の安定がなければ、教育研究活動の充実は望めない。「財政破れて私学なし」を踏まえ、帰属収入の増加を目指し、教育研究活動を支える財務基盤を確立する。

#### 【主な取り組み】

- ①定員確保による学納金収入の増加と安定
- ②寄付金収入の増加
- ③科研費等の獲得

### 2. 事業活動支出の圧縮

事業活動収入の増加とともに、事業活動支出について圧縮を図り、財政の安定を目指す。

#### 【主な取り組み】

- ①ICT化による経費節減の継続
- ②管理経費の圧縮
- ③人件費の適切なコントロール